

■ドイツ：産業需要家が電力供給の信頼度低下に警鐘

ドイツ経済紙が2011年12月29日に明らかにしたところによると、産業需要家の団体VIKのシュヴィヒ会長は「(福島原発の事故を契機とした脱原子力をはじめとする)エネルギー政策転換によりドイツの電力供給の信頼度が低下している」と述べ、それにより「複雑な生産工程における安定性が脅かされている」との警鐘を鳴らした。ドイツの電力供給の信頼度については、3分以上継続する停電をまとめた統計(SAIDI)で見ると、停電時間は1軒あたり年間約15分となっており、国際的にも高い水準が維持されているとみられてきた。しかし、3分以下の停電や電圧変動は増加しており、産業需要家に及ぼす影響は大きくなりつつある。世界第3位のアルミメーカーでドイツ国内14カ所で工場を稼働しているノルスク・ハイドロ社(本社、ノルウェー)は、2011年12月27日に電力系統規制庁のクルト長官に宛てた書簡で、2011年には同社のドイツ国内の工場で度重なる停電を経験するほか、2011年7月20日には電圧変動により約20万ユーロの被害を被ったと報告している。